



二回の入院
と、私の気持



karinomaki

好きな人

私は好きな人ができました。しかし、その人は結婚していました。私はその人の奥さんとも仲良くなり、気持ちを打ち明ける気はひとつもありませんでした。何回も、会うことをやめようと思いました。一人暮らしのマンションにいつもこもっていました。しかし、それはできませんでした。その人は実家の隣に引っ越してくることが決まっていたのです。

Uさん

その人をUさん、奥さんをS子さんと書くことにします。私はUさんも、S子さんも、大好きでした。S子さんは私の存在を許してくれる女神みたいな人と思っていました。そして、Uさんとは笑いのつぼが一緒に、いつも二人でげらげら笑っていました。S子さんがそれをどんな気持ちで見ているか考えもしないで。

S子さん

でも、Sさんは女神では決してありませんでした。嫉妬を深く深く隠していただけだったのです。ある時、私はふとした拍子にそれを全部見てしまいました。私は泣きながらUさんを問い詰めました。本当にSさんはそんな人ですか？と・・・しかし、Uさんは、言葉巧みに、私を誘導し、「どうして結婚している人を好きにならないといけないのですか！！」という、言ってはならない言葉を言わせてしまいました。

私はその時、精神病薬を断薬していて、それもあり、入院となりました。（私は精神病患者なのです。）

私は、私にあの言葉を言わせたUさんが大嫌いになっていました。私の入院を知ったS子さんは、みんなの前で泣き崩れる演技をしました。ボロボロだった私の前に、新しい主治医の先生が現れました。・・・私は一目で好きになってしまいました。カッコいいとか、そんな簡単な理由ではありません。その優しい目と、心が正しくて強そうな立派な姿に心奪われたのです。しかし、私はUさんに復讐することしか考えていませんでした。ある、アル中の患者さん（男性）と親しくなり、Uさんのいる実家から完全に逃げて、その人とこっそりマンションで暮らす計画をたててしまいました。

先生の怒り

それがばれたとき、先生は激怒しました。「どれだけ判断能力ないんだ！！」と先生は怒鳴りました。私も、「主治医を変えて下さい！！」と泣きながら叫びました。しかし、三日泣いて過ごして、詰所に先生の姿を見つけたとき、私の心には後悔と、先生への思慕がわきあがりました。「先生、ごめんなさい。」心から謝った私に、先生は優しく、言いました。「僕も言いすぎた。もうすぐ退院だね。」

退院するとき、先生は笑って見送ってくれました。しかし、私の退院先は。・・・UさんとS子さんが隣にいる実家だったのです。

先生の表札

私は、腹をくくって、実家に帰りました。もう一度、UさんとS子さんをいい人だと思いなおすつもりで。しかし、何かがゆがんでくるのです。私は哲学をしています。私の哲学は、Uさん、S子さんを汚いと判断するのです。そんな中、私は外来患者として先生の診察を受けに行きました。先生のいる診察室の表札を見ただけで、泣けてきました。私が本当に好きな人は、先生でした。

再入院

果たして、私は再入院となりました。二人の汚さをやはり見てしまったのです。そのことについては、fc2小説「愛の氷」に書いたのですが、詳しくは書きませんが、Uさんの汚さは書いていません。やはり、一度でも好きだった人のゆがみを書く気がないのです。

苦しくて楽しい最後の入院

最後の入院は、本当に苦しかった、そして楽しかったです。先生への深い愛を心から自覚する大切な思い出となりました。私は8か月もいました。そんなにかけて、先生は私にぴったりのお薬を処方してくださいました。今、私のまわりには、UさんとS子さんのような、心の醜い人は一人もいません。私の人生との戦いは決して終わりませんが、私には、今まで地獄を乗り越えてきた歴史があり、強く生きられます。私を強く、正しく治して下さった先生への感謝を表して、この文章を終わります。ありがとうございました。